

「やめようよ」
やっと言えた
心の本音

神山小 田川 寛明

さるびあ通信

令和3年度
3月発行

八幡浜市いじめ対策委員会

あたたかい ことばがつなぐ こころのわ

[2021年度「児童福祉週間標語」最優秀作品 上村 藍子さん(11歳) 香川県]

令和3年度 第3回八幡浜市いじめ対策委員会

2月25日(金)、第3回市いじめ対策委員会を開催し、1年間を振り返りました。今年度も、新型コロナウイルス感染症拡大により、各ブロックとも、予定していた事業を中止や縮小せざるを得ない一年となりました。



各ブロックからは、今年度の活動を振り返り、成果や課題について報告がありました。以下に、そのいくつかを紹介します。

ブロックいじめ対策委員会からの報告より

【愛宕ブロック】(愛宕中・白浜小・江戸岡小)

- 重点目標の「あいさつ運動の展開」について、引き続き、地域の大人にも進んであいさつができるよう呼び掛けている。その効果は出てきているように感じるが、今後も今以上に呼び掛けていく。
- ネットやゲーム依存の問題は、依然として解決されていない。各校とも、その実態はある程度把握できているので、来年度は3校で連携を図りながら、望ましい生活習慣について、児童・生徒に対する指導を充実させるとともに、ブロックとしても家庭に対して積極的に啓発していきたい。

【八代ブロック】(八代中・松蔭小・神山小・川上小・真穴小・双岩小)

- 子どもたちのあいさつ、登下校のマナーの良さ、自転車利用時の前照灯の灯火やキープレフト等、すばらしいと思う。
- 各学校からの報告では、ネット依存やゲーム依存に関することやSNSを利用したトラブルについての課題が目立った。SNSの不適切な使い方は、いじめや不登校につながる危険性がある。健全な利用について、子どもたちに地道に提案していくことが必要だ。

【松柏ブロック】(松柏中・千丈小)

- 「ふれあいいきいき講座」では、ネットやゲームとのつき合い方について分かりやすく講演していただき、「やり過ぎないことが大切」と教えていただいた。子どもたちの心にもきっと響いたことと思う。
- 先日、心温まる話を2つ聞いた。その一つは、駐在さんが地域を巡回中のこと。ご高齢の方が道路を歩いておられたのだが、自動車の接近に気付かなかった。すると小学校2年生の児童が駆け寄って、「後ろから車が来ているので危ないですよ。」と声を掛けた。やさしく勇気ある行動がとれる児童に感心した。

もう一つは、下校中に転んでけがをした児童がいるという連絡があり、現場へ駆け付けたが、すでにけがをした児童は帰っていた。近くにいた子どもたちから様子を聞くと、児童が転んだ時に図工の用具が川へ落ちたが、近くにいた大人が拾ってくれた。また、近くにいた子が応急処置をして見守り、また一人の子は急いで家に帰り、母親と共に手当に戻ってきたという。けがは幸いにも軽傷で、翌日には元気に登校したようだ。このことは、地域の方や子どもたちの手助けの様子が分かり、子どもたちが地域の方、友達、また保護者の方々に見守られている一面を垣間見ることができた。

【保内ブロック】(保内中・日土小・喜須来小・川之石小・宮内小)

- 登下校中の様子が心配であるとの声があった。以前から問題視し、機会を見つけて何度も指導している。今後も指導を継続し、適宜下校指導を行わなければならないと考えている。
- 地域の行事・イベントが中止となり、子どもたちの姿を目にする機会が減り残念だ。そういった状況下でも各学校が感染対策を徹底して、工夫を凝らして日々の教育活動を続けたり行事を実施したりして、子どもたちの活躍の場を保障していることを有り難く思う。

令和3年度の主な活動

【八幡浜市いじめ対策委員会】

- 第1回 6月29日(火) 役員選出、活動方針及び計画の決定
- 第2回 11月24日(水) ブロック活動経過報告、情報交換
- 第3回 2月25日(金) 今年度の成果と次年度への志向

【校内及びブロックいじめ対策委員会】

- 校内 年3回実施(16小・中学校)
- ブロック 年3回実施(4中学校区)



【あいさつ運動強調旬間】

- 9月1日(水)～10日(金) 八幡浜市内各地域で展開

【いじめ根絶運動標語】

- 10月1日～15日 作品募集(小学生5・6年～中学生)
- 優秀5点、優良15点、入選32点を選考し、表彰
- 12月1日～「啓発チラシ」を学校・公民館等に配布

【いじめ問題等に関するアンケート調査】

- 9月 仲間づくり・学校生活アンケート(児童生徒対象)

【さるびあ通信】年3回発行(7・12・3月)

- 八幡浜市内小・中学校全家庭、教職員、関係諸機関、市・ブロックいじめ対策委員へ配布

【きりんカフェ(登校しづらいお子さんを持つ保護者の会)】

- 5回開設 5月14日(金) 7月9日(金) 9月3日(金)
- 11月19日(金) 2月18日(金)
- ※11月は「おおずふれあいスクール」との情報交換

【広報「やわたはま」】

<広報「つなぐ・つながる」欄に掲載>

- 9月号 真穴小 チーム真穴～真穴っ子を育む～
- 10月号 川之石小 「みなせ」でつながる
- 12月号 保内中 笑顔輝く人となれ
- 1月号 松柏中 地域に支えられて
- 2月号 双岩小 おもてなし手振り運動
- 3月号 松蔭小 お四国山探訪



ひとりで悩んでいませんか？

お気軽にご相談ください。

- ☆ 電話相談・来室相談(八幡浜市教育委員会教育支援室)
☎ 0894-21-6864 月～金 8:30～17:00
- ☆ いじめ110番(八幡浜市教育委員会教育支援室)
☎ 0120-805-415 月～金 8:30～17:00
- ☆ 心の悩み相談(八幡浜市保健センター 成人保健係)
☎ 0894-24-6626 月～金 9:00～17:00
- ☆ 警察安全相談(八幡浜警察署)
☎ 0894-22-0110 24時間受付
- ☆ いじめ相談ダイヤル24(愛媛県教育委員会)
☎ 0120-0-78310 24時間受付
- ☆ こどもの人権110番(法務局)
☎ 0120-007-110 月～金 8:30～17:15
- ☆ 18歳までのチャイルドライン(チャイルドライン支援センター)
☎ 0120-99-7777 まいにち 16:00～21:00
- ☆ 児童相談所全国共通ダイヤル(虐待酷・相談)(駐在所)
☎ 189 (いちばん) 児童虐待通報電話 24時間受付

令和3年度 インターネットに関する調査結果より ～八幡浜市の小・中学生の状況～

令和4年1月に愛媛県教育委員会が「インターネットに関する調査」を実施しました。その調査結果から、本市小・中学生の課題について考察しました。



- フィルタリングサービスを利用している小学生は24%、中学生50%であった。小・中学生ともに11%の児童生徒が「利用していない」と回答している。また、「わからない」と回答した小学生は65%、中学生は39%と多い。一層の啓発を進めていく必要がある。
- 「通信機器の利用に関する家庭のルールがある」と回答した小学生は77%、中学生74%であった。未だに「ルールを決めていない」と回答した児童生徒が、4人に1人いるという実態である。家庭のルール作りの重要性は、市いじめ対策委員会でも提言し、学校でも啓発を進めているが、一層の啓発と工夫が求められる。
- インターネットの利用に関して、「問題となったことがある」と回答した小学生は6%、中学生は9%であった。その内容は、「知らない人から何度もメールや電話があった」「ネット上で悪口を書かれた」「心当たりのない金額の請求を受けた」「しつこいメールやつきまといがあった」などがある。これらの問題は、大人が気付かないうちに、深刻な問題に発展する危険性を秘めている。普段から、大人が子どものネット利用の実態を把握し、相談できる関係を作っておくことが求められる。
- 平日のゲーム時間では、約60%の児童生徒は1時間未満でゲームを終えているが、約14%の児童生徒は2時間を超えている。中には6時間を超えている児童生徒も数名いる。ゲーム時間の長い児童生徒にあっては、睡眠や学習時間等、生活リズムによくない影響があるものと思われる。ゲームの影響で、学校の成績が下がったと思った小学生は8%、中学生は17%いる。深刻な状況になる前に、対処する必要がある。

ネット依存・ゲーム障害について学びませんか！

八幡浜市PTA連合会は、小・中学校長会と協議して、保護者や教員に対してゲーム障害の症状や予防法の知識を広げていくために、次の7冊を推薦図書に選び、市内の全小・中学校に配布しました。

推薦図書

- ☆「スマホ脳」
アンデシュ・ハンセン／新潮社
- ☆「Q&Aでわかる子どものネット依存とゲーム障害」
樋口進／少年写真新聞社
- ☆「睡眠こそ最強の解決策である」
マシュー・ウォーカー／Sbクリエイティブ
- ☆「ケーキの切れない非行少年たち」
宮口幸治／新潮社
- ☆「どうしても頑張れない人たち」
宮口幸治／新潮社
- ☆「ゲーム・ネットの世界から離れられない子どもたち」
吉川徹／合同出版
- ☆「ゲーム依存からわが子を守る本」
花田照久・八木真佐彦／大和出版

ゲーム障害は、世界保健機関（WHO）が2019年に新たな依存症として認定しています。衝動が抑えられず、日常生活よりもゲームを優先し、健康に問題が生じても続けてしまうという特徴があり、学業や仕事などに重大な支障を来す症状があると警鐘を鳴らしています。

<図書紹介> 『スマホ脳』

【「BOOK」データベースより】

平均で1日4時間、若者の2割は7時間も使うスマホ。だがスティーブ・ジョブズを筆頭に、IT業界のトップはわが子にデジタル・デバイスを与えないという。なぜか？睡眠障害、うつ、記憶力や集中力、学力の低下、依存・・・最新研究が明らかにするのはスマホの便利さに溺れているうちにあなたの脳が確実に蝕まれていく現実だ。教育大国スウェーデンを震撼させ、社会現象となった世界的ベストセラーがついに日本上陸。



【出版社からのコメントより】

- わたしたちは1日平均2600回スマホに触り、10分に1回手に取っている。
- 現代人のスマホのスクリーンタイムは1日平均4時間に達する。
- スマホのアプリは、最新の脳科学研究に基づき、脳に快楽物質を放出する（報酬系）の仕組みを利用して開発されている。
- 10代の若者の2割は、スマホに1日7時間を費やしている。
- 1日2時間を超えるスクリーンタイムはうつのリスクを高める。
- スマホを傍らに置くだけで学習効果、記憶力、集中力は低下する。
- 世界のIT企業のCEOやベンチャー投資家たちの多くは、わが子のデジタル・デバイスへのアクセスを認めていないか、極めて厳しく制限している。
- フェイスブックの「いいね！」の開発者は、「SNSの依存性の高さはヘロインに匹敵する」と発言している。

などなど・・・

本書は、スウェーデン出身の精神科医アンデシュ・ハンセンが書いた脳科学の最新研究から分かるスマホの中毒性と悪影響、正しい付き合い方が分かる本です。本書を手に取り、ぜひお確かめください。

『ゲーム障害』～治療を必要とする依存症～

- ゲームの時間や頻度をコントロールできない。
- 日常生活よりゲームを最優先にする。
- ゲーム中心の生活が1年以上続いている。

「ゲーム依存行動」は、ゲームをすることで脳に快感物質を出させ、それが日常となり、快感物質が出ないのが異常だと判断して、ゲーム行動へと脳が誘ってしまう。

子どもの脳は、欲望を抑える部分が発達途上であり、理性より欲望が勝り、依存しやすい傾向がある。

この2年間、新型コロナウイルス感染症の影響により、子どもたちは自宅にいる時間が長くなり、ネットやゲームへの依存が懸念されています。本市においても、ゲームやネットによる生活習慣の乱れや不登校児童生徒の増加など通学への影響がみられる事例が増えてきています。



子どもたちの家庭での生活に関わる問題であり、学校での対応には限界があります。本年度当初、校長会とPTA連合会は、何かできることはないかと協議を深めていく中で、保護者の理解を広げていくために、図書での周知を図っていくことを発案しました。そして、参考になる図書を選び、昨年10月、市内の全小・中学校に配布したのです。

小・中学校では、教職員の校内研修に活用するとともに、学校だよりやホームページ等でこの7冊を紹介して保護者への貸出を行っています。ぜひ一度、手に取って読んでみられてはいかがでしょうか。